

様式第 10

循環型社会形成推進地域計画改善計画書

地域名	構成市町村等名	計画期間	事業実施期間
角田市	角田市	平成22年度～平成26年度	平成22年度～平成26年度

1 目標の達成状況

(ごみ処理)

指 標	現 状 (平成 年度)	目 標 (平成 年度) A	実 績 (平成 年度) B	実績B /目標A
排出量	事業系 総排出量	t	t	%
	1事業所当たりの排出量	t	t	%
	家庭系 総排出量	t	t	%
	1事業所当たりの排出量	kg/人	kg/人	%
合 計 事業系家庭系総排出量合計	t	t	t	%
再生利用量	直接資源化量	t	t	%
	総資源化量	t	t	%
熱回収量	熱回収量 (年間の発電電力量)	MWh	MWh	
減量化量	中間処理による減量化量	t	t	%
最終処分量	埋立最終処分量	t	t	%

※目標未達成の指標のみを記載。

(生活排水処理)

指 標	現 状 (平成21年度)	目 標 (平成27年度) A	実 績 (平成27年度) B	実績B /目標A
総人口	32,226 人	31,876 人	30,318 人	—
公共下水道	污水衛生処理人口			%
	污水衛生処理率又は污水处理人口普及率	%	%	%
集落排水施設等	污水衛生処理人口	1,254 人	1,370 人	89.6%
	污水衛生処理率又は污水处理人口普及率	3.9 %	4.3 %	93.0%
合併処理浄化槽等	污水衛生処理人口	4,903 人	6,788 人	68.6%
	污水衛生処理率又は污水处理人口普及率	15.2 %	21.3 %	72.3%
未処理人口	污水衛生未処理人口			%

※目標未達成の指標のみを記載。

2 目標が達成できなかった要因

計画策定当時は5年間で1パーセントの減少を見込んでいた総人口が、見込みを大幅に上回る6パーセントの減少となり、公共下水道、農業集落排水、合併処理浄化槽の各区域に居住する住民構成に変化が生じたこと、また、平成23年3月に発生した東日本大震災の影響で、平成23年度の設置基数が通常の年の75パーセント程度にとどまったことも一因と考えられる。

3 目標達成に向けた方策

目標達成年度 平成32年度まで

平成27年度まで国の基準額の半額であった浄化槽設置整備事業補助金額を、平成28年度から国の基準額と同額とする増額改定を行っている。これにより住民負担を軽減しつつ合併処理浄化槽の設置を推進し、汚水衛生処理人口及び汚水衛生処理率の向上を図っていく。

(都道府県知事の所見)

集落排水施設等事業及び合併処理浄化槽等事業が設定した目標値に達しなかった要因としては、事業計画期間中に東日本大震災が発生したことの影響も考えられるが、震災の影響を考慮して計画を見直すことも必要だったと思われる。

平成28年度から浄化槽設置整備事業の補助金額を改定されたことで、住民の負担軽減が期待されることから、今後も引き続き整備区域を精査し、住民へ積極的に広報を行うなど、未処理人口の減少に努めてもらいたい。